

○12番（齊藤政雄君） おはようございます。12番、齊藤でございます。私は、染谷川改修事業の1点について、町に対して質問をしたいと思っております。今日、雨の中大変ご苦労さんでございます。

染谷川改修事業として、354の上の橋の改築工事負担金が予算化しており、完成後は3年後と聞いております。染谷川は、私がなる前の橋本正士町長が、旭化成の進出とともに計画された染谷川と思っております。それから陽光台ができ、そして現在においては、染谷川上流は染谷川周辺冠水対策として大きなお金が出ております。

染谷川の完成がされつつある中、こんなことが起こっております。昭和62年に、水田埋立てに関する請願書として議会に出されました。それから40年以上、橋本正士町長が染谷川の計画が出されてから50年以上、その間下小橋においては、水田遊水対策組合として遊水地として協力をされてきました。上の橋が完成されるとなると、いよいよ染谷川を全体的に、先ほど上流のほうは冠水対策のほうで大きな事業がされており、そして陽光台から上の橋、いわゆる354までに染谷川の規模は小さくなっていますけれども、それなりの川ができつつある中、こういったことの見通しがされたので、やはりこの3年間のうちには完成が見られるのかなと思います。

そして、先ほど言いましたように下小橋地区の皆さんにおいては、染谷分は旭化成の土で反対は埋めましたので、そのときに下小橋さんのはうから、私のほうも反対側を埋めたいという問題から出てきた問題でございますので、今後の完成後の町の考え方をお聞きしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

終わります。

○議長（倉持功君） ただいまの染谷川改修事業についての質問に対する答弁を求めます。

建設農政部長。

〔建設農政部長 光田浩志君登壇〕

○建設農政部長（光田浩志君） おはようございます。それでは、齊藤議員の1項目め、染谷川改修事業についての下小橋水田遊水対策組合についてのご質問についてお答えをいたします。

まず、現状でございます。下小橋水田遊水対策組合は、陽光台南側、町道1—10号線から下小橋染谷地区の国道354号に架かる上の橋までの染谷川に沿って約7.5ヘクタールの土地の地権者の方々により、昭和62年11月に設立されました。その後、平成元年2月及び平成16年4月には町と組合が協定を締結し、これに基づいて町から地権者及び組合に対しまして、遊水池的機能を果たしている区域への補償といたしまして、補償金をお支払いしているところでございます。令和6年度には、4.5ヘクタールを対象にお支払いしたところでございます。組合員の皆様には、水田の耕作、維持管理などに取り組んでいただき、遊水機能の確保に努めていただきました。

一方、現在では区域の大部分では米の作付がなされていないこと、後継者難などから、今後ますます耕作者や耕作地が減っていくなど、今後さらに区域の維持管理が難しくなると見込まれております。また、この地域の染谷川改修につきましては、上の橋周辺を除き完成しているところであります。

周辺の整備につきましては、令和10年度までを目途に茨城県境工事事務所による国道354号道路改修工事が進められており、これにより上の橋周辺の整備が完了し、染谷川改修事業も完了することとなってございます。その後は、これまでと比べ染谷川の氾濫や溢水する可能性は少なくなると見込んでおります。

今後につきましてございますが、令和10年度には染谷川改修工事が完了すること、組合設立から既に40年近い年月を経過していることもあります。設立当初とは組合をめぐる環境も大きく変化していると考えております。このため、改めて町と組合との協議の場を設け、組合員のお考えをお聞きし、本町とどのような取組を行えるか検討し、実現してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し質問はございますか。

斎藤政雄君。

○12番（斎藤政雄君） 私はちょうど議員になったとき、これは最初の頃なのですけれども、染谷川の改修工事の状況と地域トータルの将来の計画についての町の考えはという形で、ちょうど昭和53年にそのことも聞いております。私も長くやってきていましたので、染谷川と一緒に生活かなという感じにも受けられますけれども、最後にどうなるということの考えもできませんけれども、たまたま橋本正士町長から始まった事業、それを運がよく今橋本正裕町長も後を継いでおりますので、その点について今後の考え方だけお聞きしたいなと思っております。

○議長（倉持 功君） 質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、斎藤議員のご質問にお答えしますが、先ほど部長から回答したおり、遊水組合の皆さんがあなたがどうしたいのか、前に斎藤議員から聞いたのは、もう管理がなかなか難しいと。我々はずっと、先ほども言ったとおり1アール当たり6万円払っているわけです。途中で返された方々もいたりして、逆に言えば我々からすれば、多分当時の方々は土地に対しての計画をあまり持っていないかったのではないかと、その後の話ですね、うちの祖父がやっていた後の話。結局今はソーラーができてしまったりとか、虫食いみたいになってしまっているわけです。あれが全体そろっていえばいろんなことを考えられたかもしれないし、今はもう1本中に入った土地、そこしか残っていないくなってしまっているわけです。それに対して地権者の皆さんのが、あれを完成間もなくするのだと、であればあれをどうにかしてもらえないかという話が町のほうに来れば、町としてはいろんな検討してまいりますけれども、町であれをどうするのだと何とかだって言われると、例えば先ほども斎藤議員言われたように、平成16年から毎年、今は多分二百数十万だと思うのですけれども、ずっと払い続けているわけです。迷惑をかけているというか、遊水であそこがなくなると、要はあの辺の水がのみ切れないので、そのためにあそこを埋めないとくださいと。途中の間では、うちの祖父ではないときに、あそこを埋めてしまつて何かにしてしまおうといって、そうしたらあの辺がもう水が全部ぽか

ぽかになってしまふから駄目だといって、お金もうけよりもやっぱり冠水対策だといって、あそこを残してもらった経緯があるわけです。ですので、染谷川が完成をして、ではどのぐらい、先ほど何か軽減はされるだろうと言っていましたけれども、軽減がされるだろうの前は、冠水がなくなるみたいに書いてあったのです。なくなるわけないだろうと言ったのです、この雨ですから。だから、実際にそういうデータを取って、あそこを本当に畠とか田んぼではなくしてしまってもいいのか、そういうことまで全部計画をして、どうするかということを本来ならば行政が考えていないといけないです。ただ、それを僕が考えて、今僕が言っていますけれども、行政がしっかりと考えて、この先どうするのだということをやっていけるような、そんなことをやっぱり指示していかなければいけないのかなとは僕は思っていますけれども、とにかくは、やっぱり遊水組合の方々も年齢を重ねてきて、この先次のせがれさんたち、娘さんたちの世代に継ぐといったときに、困ってしまうというのも本当の話だというふうには思っておりますので、これは組合の皆さんと早急にどうしていくか、町としては要望があれば、それに沿ってしっかりとやっていきたいというふうに思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し質問はございますか。

齊藤政雄君。

○12番（齊藤政雄君） 染谷川に対しては、今町長言うとおりでありますけれども、ただ染谷川は旭化成ができたために、旭化成の水を何とか流すのには、小さい染谷川を大きい染谷川にしてという形で橋本正士町長が考えたものと、その当時私は思っています。というのは、その後で先ほど言いましたように染谷分としては、私の先輩でありました議員がいましたものですから、旭化成さんの土を埋めたいと。そうすると下小橋分は、では私たちもそのとおりやろうかっていったときは、ちょうどその頃は地下鉄工事があったのです。その泥がここへ埋められますよって、そういった状況の中で始まつたものですから、ただ橋本町長が終えて、町長もいろいろ替わってきましたけれども、冠水対策、いろいろ染谷川というのは、歴代の町長はなかなか手をつけられなかつたと。今の橋本正裕町長になってからは、冠水対策として染谷川も工事しなくてはならないという形で考えてくれましたので、これからはいろいろな面で話合いを持っていくことに協力を惜しみませんので、その点を含めましてお願いしまして、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（倉持 功君） これで、齊藤政雄君の一般質問を終わります。